

第15次派遣(美里)

8月15日(月)～8月20日(土)

班長：小此木洋幸さん(中央)

太田 健さん(九州)

《全労金第15次派遣出発！》 8月15日

第15次派遣メンバーの中央労組小此木さん、九州労組太田さんが美里ベースキャンプに向けて出発しました。

各ベースキャンプともに運営スタッフの休養をとるため、第14次派遣は12日(金)に帰京し、第15次派遣は本日15日(月)に出発することになりました。19日(金)まで活動します。

第15次は2名での参加となりますが、自動車総連のみなさんと一致団結して活動を進めていただきます。

引き続き、全国の仲間からのエールをお願いします。



《左が中央労組小此木さん、右が九州労組太田さん》



《出発するバスに手を振って激励する連合・全労金・中央労組の役員》

《美里BCに到着しました》 8月15日

チーム全労金の2名は連合を11時に出発し、只今、美里BCに到着しました。道中、所々で激しい雨が降っており、美里もにわか雨でした。明日が晴れる事を祈るばかりです。第15次派遣は2名のチームですが、自動車総連の皆さん13名と一体になって復興に向けた活動に臨む決意です。それでは、これから自動車総連の皆さんと結団式に行って参ります。

《活動開始です》 8月16日

今日は牡鹿半島、給分浜方面での活動です。朝の注意事項は熱中症対策と日焼け止めをしっかりとる事。特に日焼けは油断大敵。連合から支給される対策ツールを身につけて、全労金チームから代々引き継いだ絆を胸に頑張ってきます。



《一日目が無事終了しました》 8月16日

皆さんの温かい励ましのコメントありがとうございます。本日の作業は、側溝の汚泥の掻き出しでした。社協を通じて参加している、他のボランティアグループと協力しての作業でした。その側溝は満潮時には海水が溢れてしまうとの事で、早期に対応して欲しいという要望があったそうです。側溝の蓋を開けてみると、中には汚泥に埋もれたアスファルトやコンクリート、瓦などが頑なに居座り、私たちをてこずらせました。なんとか深さ1メートルはあると思われる側溝を50メートル程度掘り返す事ができました。作業前後の写真は撮影できませんでしたが、休憩時の水分補給同様、私たちの体力を支えてくれたお弁当の写真は撮り逃しませんでした。明日の作業は、今日の続きと午後から視察が予定される模様です。そろそろ乾燥機が終了しそうです。夕食は第13次からの引き継ぎをめざします。(報告：小此木)



《こんばんは！》 8月17日



こんばんは！

毎回写真で目をつぶっている、九州労金労組太田です。

なぜか携帯のカメラが壊れるというトラブルに見舞われ、さらにデジカメからデータを移してアップしようとしたら、容量オーバーによりアップ不可能となってしまう困り果てていましたが、画像サイズを変換することでやっとアップ可能となりました。

2日目も引き続き石巻での側溝泥だしを行いました。狭くて深い悪夢のような側溝ですが、2日目という事もあり、効率よく作業が進みました。

小此木さんの発案によるバケツ斜め作戦（写真参照）により作業効率が15%アップしました！いかなる時も創意工夫！

それでは3日目の作業の活力を得る為に夕食に行ってお参ります！

第12次の全労済労組さんよりの引き継ぎである鳥由に行く予定です！（報告 太田）



《おはようございます》 8月18日



今朝は、予報通りの雨です。降ったりやんだりの天候です。先程、本日の作業が確定し、引き続き側溝の掻き出しに行ってきます。1日目は、側溝の中程で水が溜まり瓦礫と木片、大量の草や土砂との格闘でした。昨日はその下流に堆積した土砂を取り除く事にしました。下流は水が流れなかったために乾燥して土砂が固まっている上に、陶器、ガラス、瓦等のかけらが多くスコップを挿す音がガチガチと鳴り固い手応えに悪戦苦闘しました。

作業を昼に終えて、午後は石巻市を視察しましたがチーム美里のメンバーは、あの側溝を開通させたい、明日もこの現場に来たい、と想いを残してきました。今朝の現場が発表された時、メンバーからは、静かに力強く「よし」の声が挙がりました。

美里から鮎川浜周辺までは、バスで1時間40分の道程です。道路は補修されてはいるものの、所々で波打ち、徐行を余儀なくされます。車窓には一階部分を波に掠われた家屋が映っていきます。今日の私たちの一掻きが、僅かでもこの土地に暮らす皆さんの復興の足掛かりになればと思います。時々、手足がびくびくしますが、今日も元気に行って参ります！

(写真は視察で訪れた石巻城跡・鹿島神社から見た被災地の様子。瓦礫が寄せられた山と更地が目立ちます)

《引き継ぎの行方》 8月18日

昨日のブログで、第13次からの引き継ぎにリトライする宣言をしましたが、ちょっとしたアクシデントがあり、断念せざるを得ませんでした。しかし、夕食から戻ると第14次からの引き継ぎ先から明かりが見えたために、急遽、笑楽さんに伺いました。絆の酒も無事に引き継ぎ、第16次へのリレーにも備えました。地元の方に愛され25年の明るい笑顔のお母さんが印象的でした。



《三日目～開通～》 8月18日



ブログをご覧の皆さん、ありがとうございます。
側溝の掻き出しも三日目を迎えました。掘っても掘ってもなかなか底に辿り着きませんが、本日やっと上流に溜まっていた水が出口まで流れ出すようになりました。あとはひたすら、底に辿り着くまで汚泥を掬い上げる作業です。溜まった水は黒く濁っていますが、勢いよく流れる様に歓声を上げて喜びました。側溝全体の長さからは、ささやかな距離ではありますが絶え間無く流れる水に達成感を味わいました。明日も頑張ります。



《最終日作業終了！》 8月19日



こんにちは！九州労金労組太田です。

最終日の作業が終了いたしました！最終日は、これまでの3日間とは場所がかわり、海のすぐそばでの作業となりました。

例によって側溝さらいだったのですが、昨日までの悪夢のような側溝（幅30cm、深さ120cmほど）とは異なり、深さ25cmほどの非常に愛らしい側溝でした。

これまで培ってきたテクニックとチームワークにより、バシバシと作業は進みました！

海の側ということで、被害は甚大だったようで、車ほどの大きさのコンクリートがそこら中にありました。

改めて被害の大きさを認識し、最終日の作業を終えました。

この後退団式が行われます。（報告、太田）



《最終日の作業報告》 8月19日

今日は、太田・小此木がそれぞれブログをカキコミます。多少重複する記載もあると思いますがご容赦下さい。昨日、なんとか開通した側溝は、その上流では路面まで土砂が堆積しており、全体の開通には至っていません。港に面したこの土地は起伏のある路上に50〜60cm程度の幅の側溝が走っています。今日は、その上流箇所を他のボランティア団体が担当し、私たちは港側の住宅付近の側溝を担当しました。今回の側溝は深さ25cm程で堆積しているものも下流では軟らかく、比較的掻き出し易く作業できました。しかし、僅かに上流を掻き出すと、粘土質の塊に割れた瓦が埋もれており主に太田さんが苦勞していました。太田さんのスコップ捌きは腰だけでなく、十分に頭を使った仕事のはかどるものです。実に頼りになるメンバーに恵まれて助かりました。（そうそう、コップ捌きも流石、九州男児です）最終日となる今日は1時間半程度の作業となり、掻き出した距離は目測で70m程でした。まだまだ、住民の方の役に立つまでには不足がありますが、次のボランティアに託さざるを得ませんし、一日も早い復興を祈るばかりです。まだまだ、お伝えしたい事もありますが、今日の作業報告といたします。



《第19次部隊最終報告》 8月19日

ついに全てが終了いたしました。終わってみて思うことは、一言です。本当に来て良かった。

思えば、日曜日の夜に東京につき、翌日からのボランティアについて思いはせていたことが懐かしく感じます。

あっという間の5日間でしたが、生涯忘れられない5日間でした。今回、私たちができた作業は4日間合わせても150m程度のどぶさらいです。大人が15人必死こいて、具合悪くなりながら、泥まみれになりながらやってもそんなもんです。一人一人が出来ることは微少です。15人でもこんなもんです。ただ積み重ねる事でしかできない事があると思います。

今回、第19次のメンバーの中で私が最年少でした。やはり組合専従の方が多数を占めていました。一週間仕事を休むのは、やはり難しい事だと思います。私は上司・先輩の方々が積極的に行ってこいと言って下さったので、幸運でした。

ただ組合歴の浅い、これから組合の中心を担って行かなければいけない青年層こそ行くべきだと感じました。組合の根本思想は、一人では難しい事も助け合い話し合い団結するところにあると、個人的に思っています。ボランティアもまったく同じです。

みんなで集まり、お互いの意見を尊重し、助け合い、知恵を出し合って進んで行きます。若い人間こそ（私自身二年目ですが）経験してほしいと思います。

5日間本当にあっという間でした。共に作業した皆様、取りまとめをしてくださった連合のお二人、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

それにしても楽しい5日間でした！

出会えた皆様に感謝し、宮城県の復興を心から祈り、この報告にコメントをくださった、応援して下さった全ての人に感謝し、私の報告を終えたいと思います。

本当にありがとうございました！（報告、太田）



《ありがとうございました》 8月20日

連合第19陣（全労金第15次）派遣団は先程解団式を終えました。皆さんから頂いたコメントを始め、ともに活動した自動車総連の皆さん、連合本部、連合宮城の皆さんの励ましが大きな力になりました。ありがとうございました。東北の復興・再生にはまだまだ時間と力が必要です。皆が諦めず、少しずつでも歩みを止めずに取り組む事で必ず復興・復旧を実現できると信じています。二日目の写真で土のうの後ろにあったコンテナは牡蠣の養殖に使う帆立の貝がらだそうです。私たちが作業をしている間も連日、養殖に使うアンカーの準備をしておられました。東日本大震災は大変大きな爪痕を残しましたが、私たちが訪れた宮城の皆さんは逞しく復興を目指して日々奮闘されています。改めて被災した皆さんに寄り添いエールを送り続けようと強く感じ、昼も夜も厚い人の情けに触れたた四日間でした。皆さん本当にありがとうございました。（報告：小此木）



《ただ今帰京しました》 8月20日

6月20日午前6時、東京駅に連合救援ボランティア第19陣のメンバー全員が無事に帰京しました。今日までの励ましのコメントありがとうございました。私たちは毎日大きな活力を頂きました。引き続き第20陣（全労金第16次）に参加する傳田さん、野田さん、岩本さんへの応援をよろしくお願いします。第16次メンバーの皆さん、作業中はサウナの中でするプロレスです。熱中症にならないよう無理せず頑張ってください。それでは、私の頼もしいパートナーでありチーム美里のムードメーカーとして活躍した九州労組の太田さんを見送り、私も家に帰ります。皆さん本当にありがとうございました。引き続き東北を応援し寄り添っていきましょう。（報告：小此木）



以 上